



# 2020年3月期 決算資料

2020/6/12

寺崎電気産業株式会社  
(証券コード：6637)

# 会社概要

《2020年3月末現在》

社名	寺崎電気産業株式会社 TERASAKI ELECTRIC CO.,LTD.
本社所在地	大阪市平野区
代表者	代表取締役社長 寺崎 泰造
創業	1923年(大正12年)
資本金	12億3,664万円
従業員数	1,930名(連結) 550名(単体)
事業内容	電気機器器具の製造販売
連結子会社	国内5社 海外8社
上場市場	東京証券取引所 JASDAQスタンダード
株式状況	発行済み株式数 13,030,000株 株主数 738名(単元株所有者) 単元株数 100株
決算期	3月末日

# 事業概要

## 船舶用システム製品

ひとたび出港すれば、自らの装備のみが頼りとなる船舶。その安全航海を担うのが、私たちテラサキの船舶用配電制御技術です。

- 船舶用配電制御システム
- 監視制御システム
- 陸電供給システム
- 船員教育訓練システム



## 機器(ブレーカ)製品

わが国で最初にブレーカ(配線用遮断器)を独自開発。様々な国際規格の認定取得に取り組み、人命や建物、財産を、危険な電気事故から保護し続けます。

- 低圧遮断器  
気中遮断器・配線用遮断器・漏電遮断器
- MCTマルチケーブルランジット  
(ケーブル貫通部総合防災品)



## 産業用システム製品

ビル用配電制御システムから始まった私たちの技術は、再生可能エネルギーや新エネルギーの分野に貢献します。

- 配電制御システム
- コージェネレーション向け制御システム



## メディカルデバイス

創業以来取り組んできた電気電子・制御技術をベースに、開発・設計から製造まで一貫した体制で人々の健康を守ります。

- 医療機器
- 臨床検査機器



## エンジニアリング及び ライフサイクルサービス

お客様が導入された設備を安全に、永く、安心してお使いいただけるよう、磨き上げられたエンジニアリング技術やマネジメント力で支援します。

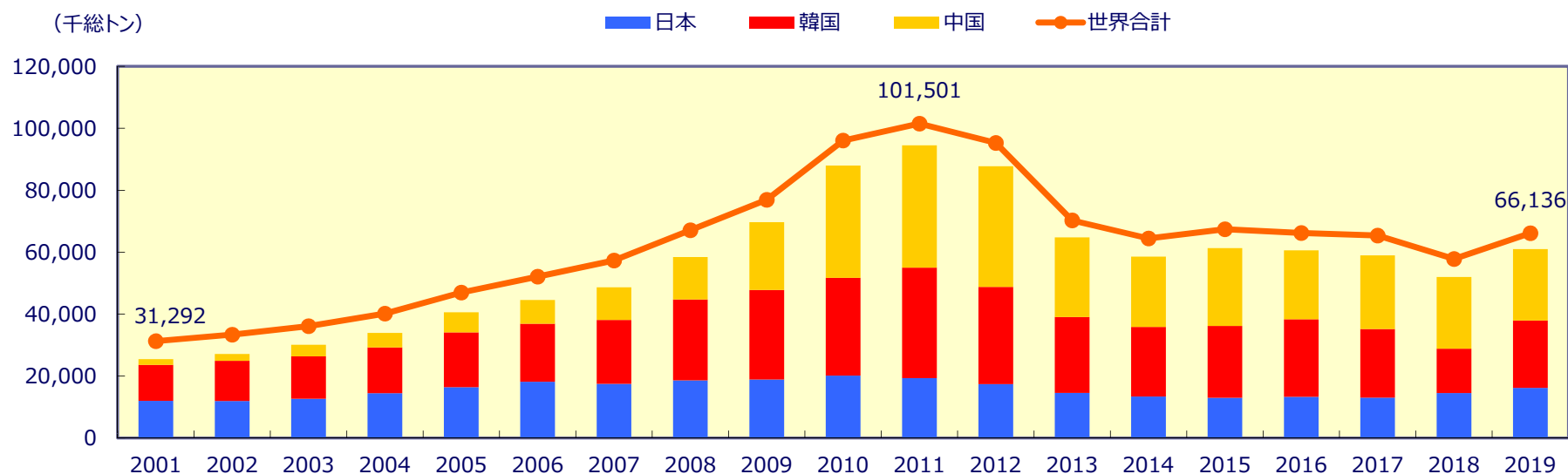
- 当社製品の保守・メンテナンスサービス
- 機械設備の設計・構築等のエンジニアリングサービス
- レトロフィットとライフサイクルサービス
- 船員トレーニング・サービス



# 世界造船業界の動向（竣工量）

2019年1-12月での「世界の造船竣工量」は  
66,136千総トンとなり対前年比 14.4%増

日本…	493隻	16,214千総トン	（対前年比 11.6%増）
韓国…	239隻	21,744千総トン	（対前年比 51.8%増）
中国…	880隻	23,036千総トン	（対前年比 0.5%減）



《参考》2020年予想（日本13,642千総トン、韓国18,815千総トン、中国31,669千総トン、世界合計 71,693千総トン）  
2021年予想（日本 6,748千総トン、韓国16,351千総トン、中国14,558千総トン、世界合計 41,544千総トン）

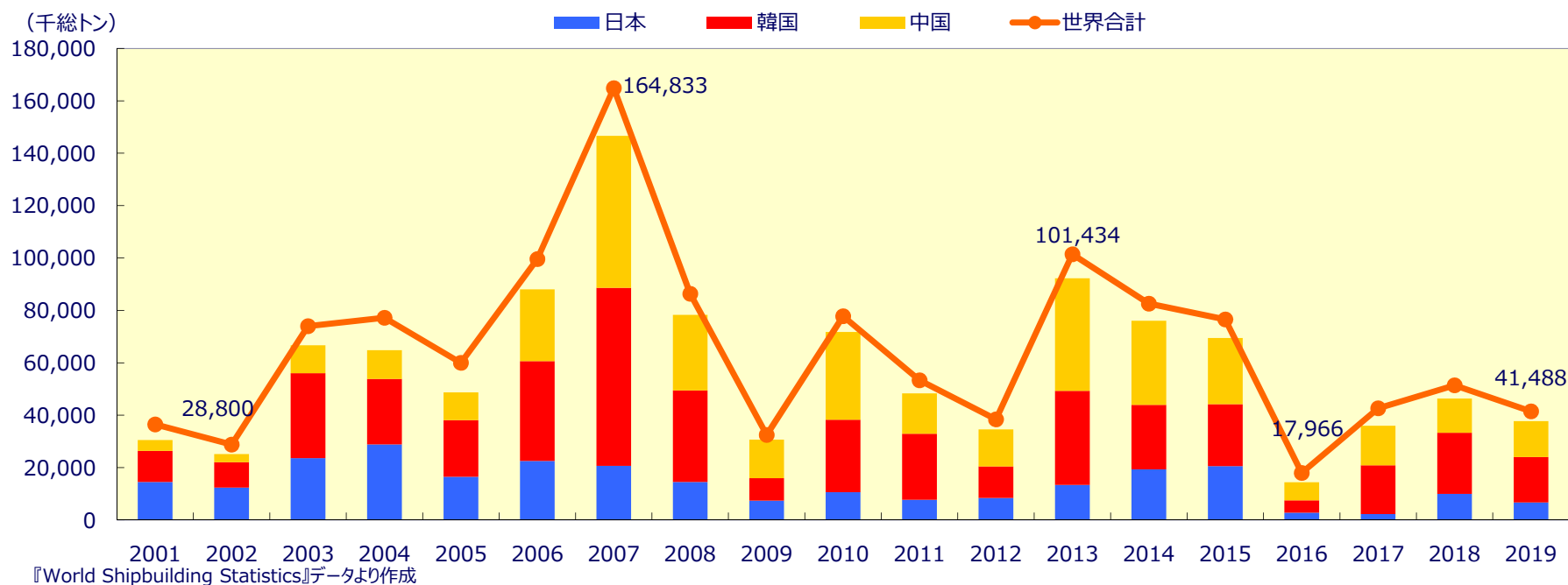
『World Shipbuilding Statistics』データより作成

※2019年12月末時点の手持工事量による

# 世界造船業界の動向（受注量）

2019年1-12月での「世界の造船受注量」は  
41,488千総トンとなり対前年比 17.7%減

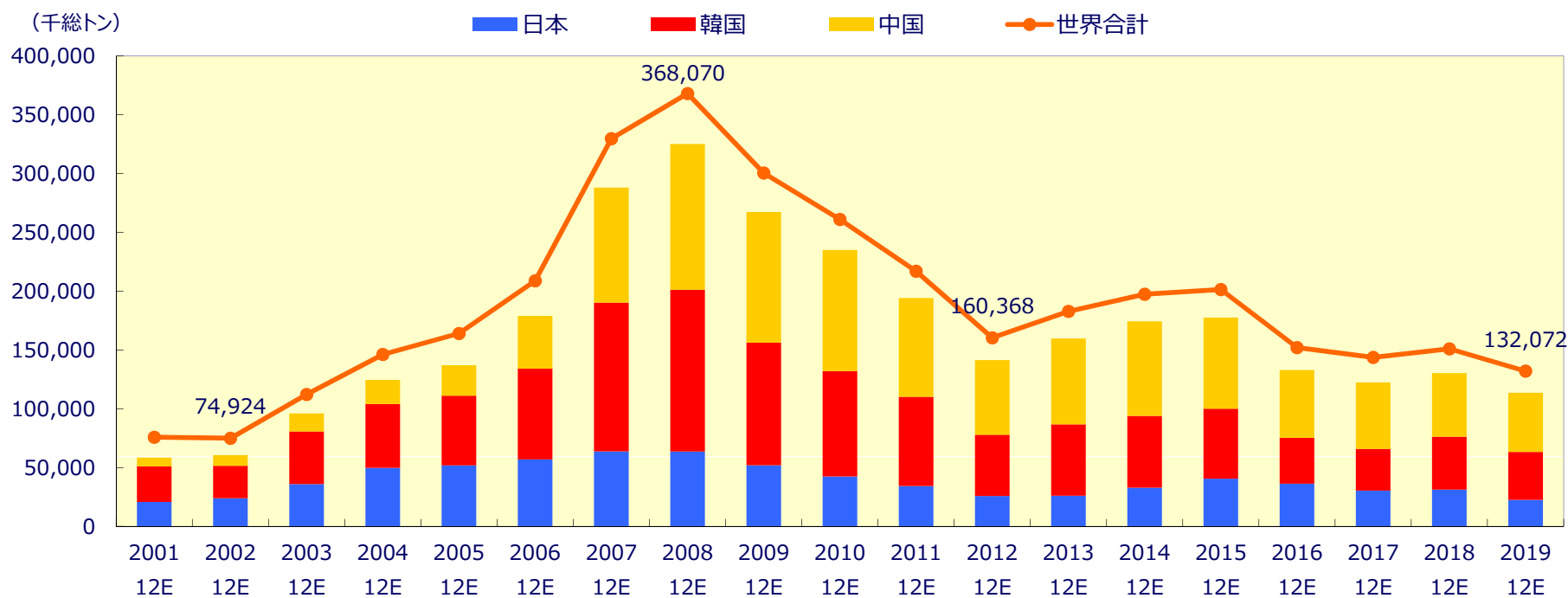
日本・・・	296隻	6,706千総トン	（対前年比 34.9%減）
韓国・・・	217隻	17,366千総トン	（対前年比 24.8%減）
中国・・・	369隻	13,660千総トン	（対前年比 4.5%増）



# 世界造船業界の動向（手持工事量）

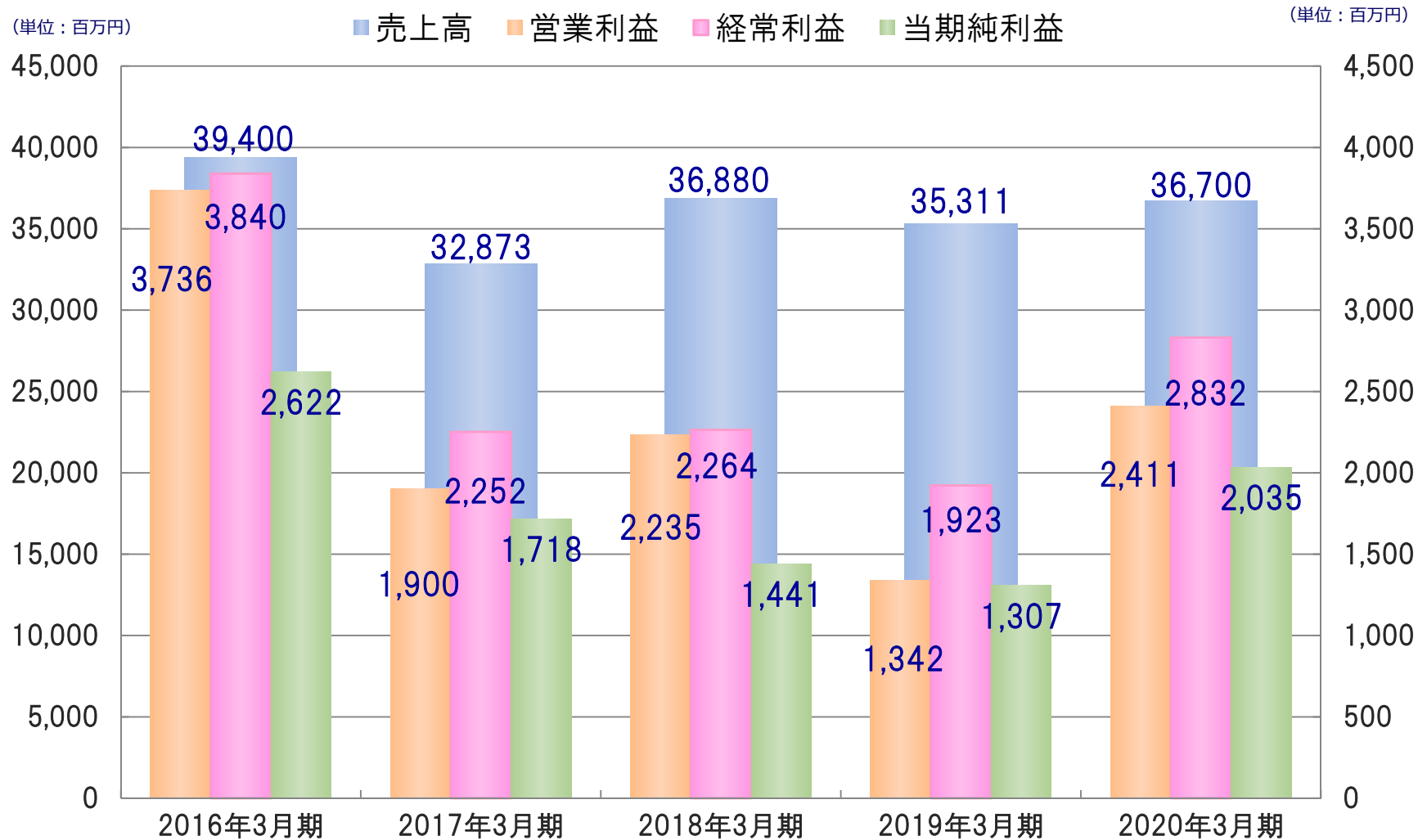
2019年12月末における「世界の造船手持工事量」は  
132,072千総トンとなり対前年12月末比 12.5%減

日本・・・ 674隻 22,551千総トン（対前年12月末比 27.9%減）  
 韓国・・・ 457隻 40,763千総トン（対前年12月末比 9.3%減）  
 中国・・・1,519隻 50,321千総トン（対前年12月末比 7.0%減）



『World Shipbuilding Statistics』データより作成

# 連結決算概要



# 連結決算概要

(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	対前期増減率
売上高	39,400	32,873	36,880	35,311	36,700	+3.9%
営業利益	3,736	1,900	2,235	1,342	2,411	+79.6%
経常利益	3,840	2,252	2,264	1,923	2,832	+47.2%
親会社株主に 帰属する当期純 利益	2,622	1,718	1,441	1,307	2,035	+55.6%
EPS (1株当たり 当期純利益)	円 銭 201.27	円 銭 131.93	円 銭 110.67	円 銭 100.36	円 銭 156.20	
1株当たり 配当金	円 12.00	円 14.00	円 14.00	円 14.00	円 16.00	

当期連結累計で、為替差益 251百万円等が発生いたしました。

2020年3月期業績に与える新型コロナウイルス感染症の影響は軽微でありました。

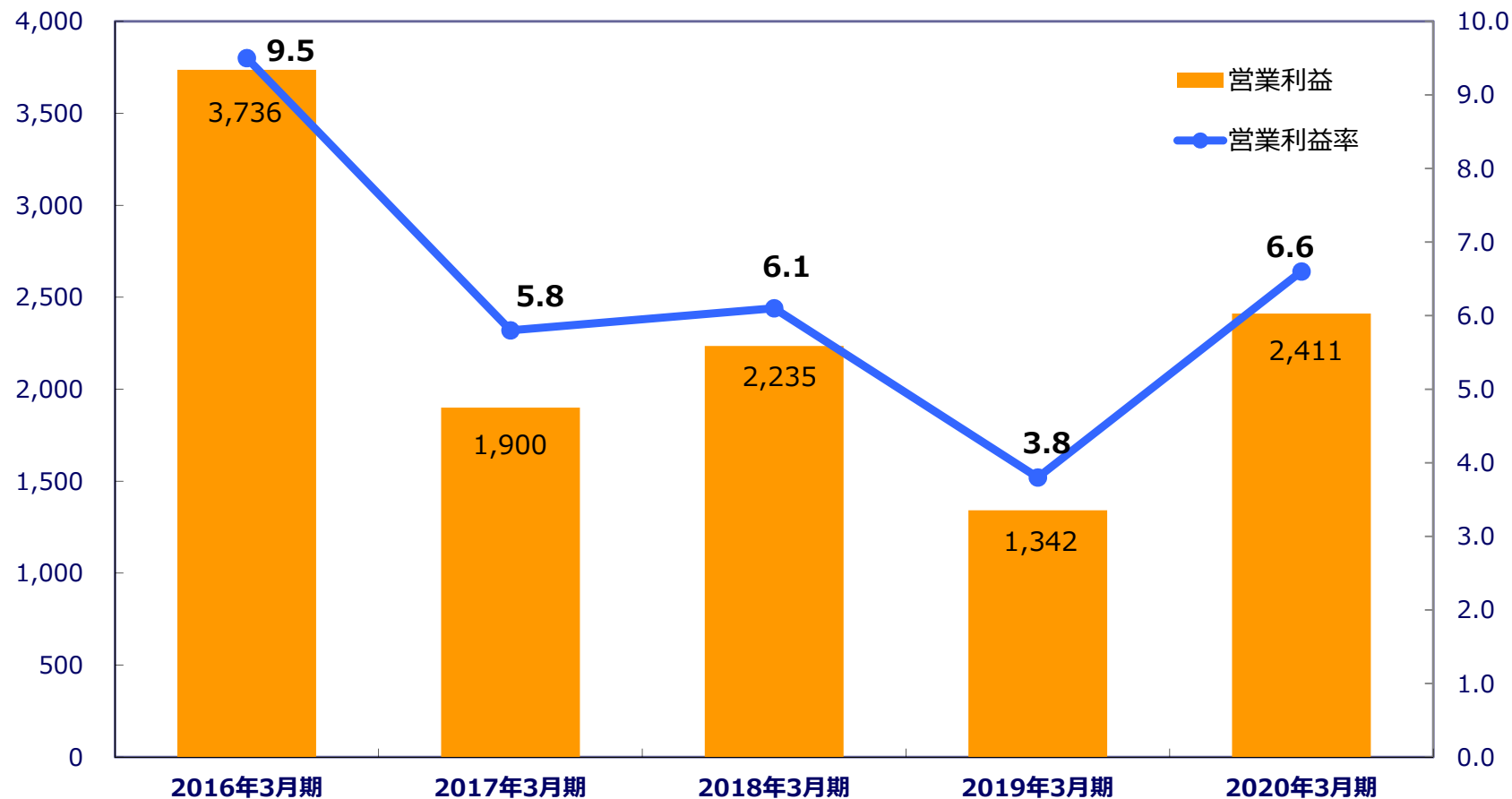


# 連結決算概要

経営目標：売上高営業利益率5%以上

(単位：百万円)

(単位：%)



# セグメント別概要 日本

(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	前年同期比 増減率
売上高	26,471	23,002	23,140	+0.6%
セグメント利益	2,159	1,299	2,089	+60.8%
売上高比率	71.8%	65.2%	63.0%	

## 《売上高 前年同期との差異ポイント》

船舶用システム製品	増加	陸電供給システム及びLNG船が減少するも、海洋環境規制関連製品及びコンテナ船が増加
産業用システム製品	減少	国内及び海外プラント向けが減少
メディカルデバイス	増加	医療機器及び臨床検査機器ともに堅調に推移
エンジニアリング及びライフサイクルサービス	増加	海洋環境規制関連工事及び産業向けエンジニアリング案件が堅調に推移
機器製品	減少	国内向け・・・低調に推移 海外向け・・・舶用市場向け及びオセアニア地域が増加

# セグメント別概要 アジア

(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	前年同期比 増減率
売上高	6,545	8,199	9,570	+16.7%
セグメント利益	670	708	925	+30.7%
売上高比率	17.7%	23.2%	26.1%	

## 《売上高 前年同期との差異ポイント》

船舶用システム製品	増加	バラ積み貨物船及びコンテナ船等が増加
エンジニアリング及び ライフサイクルサービス	増加	陸電供給システム及びSox規制等の海洋環境規制関連工事が 堅調に推移
機器製品	減少	OEMが増加するものの、マレーシア政権交代の影響等により マレーシア国内向けが減少

# セグメント別概要 ヨーロッパ

(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	前年同期比 増減率
売上高	3,863	4,109	3,989	△2.9%
セグメント利益	253	220	238	+8.1%
売上高比率	10.5%	11.6%	10.9%	

## 《売上高 前年同期との差異ポイント》

機器製品	減少	英国内はほぼ横ばい、中近東地域が堅調に推移するも、欧州地域が減少し、加えて為替の影響により減少
エンジニアリング及び ライフサイクルサービス	増加	レトロフィットビジネスが堅調に推移

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	増減
資産の部			
流動資産	32,570	33,342	+772
固定資産	12,179	13,425	+1,245
<b>資産合計</b>	<b>44,749</b>	<b>46,767</b>	<b>+2,017</b>
負債の部			
流動負債	12,546	11,763	△782
固定負債	2,131	3,565	+1,433
<b>負債合計</b>	<b>14,678</b>	<b>15,328</b>	<b>+650</b>
純資産の部			
株主資本	29,427	31,279	+1,852
その他の包括利益累計額	607	124	△482
非支配株主持分	37	34	△2
<b>純資産合計</b>	<b>30,071</b>	<b>31,439</b>	<b>+1,367</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>44,749</b>	<b>46,767</b>	<b>+2,017</b>

## 主な増減

### 《流動資産》

現金及び預金 △195

受取手形及び売掛金 △350

たな卸資産 +998

### 《固定資産》

有形固定資産 +451

退職給付に係る資産 +1,021

### 《流動負債》

1年内返済予定の長期借入金 △1,185

その他流動負債 +296

### 《固定負債》

長期借入金 +632

繰延税金負債 +343

その他固定負債 +426

### 《その他の包括利益累計額》

為替換算調整勘定 △1,011

退職給付に係る調整累計額 +607

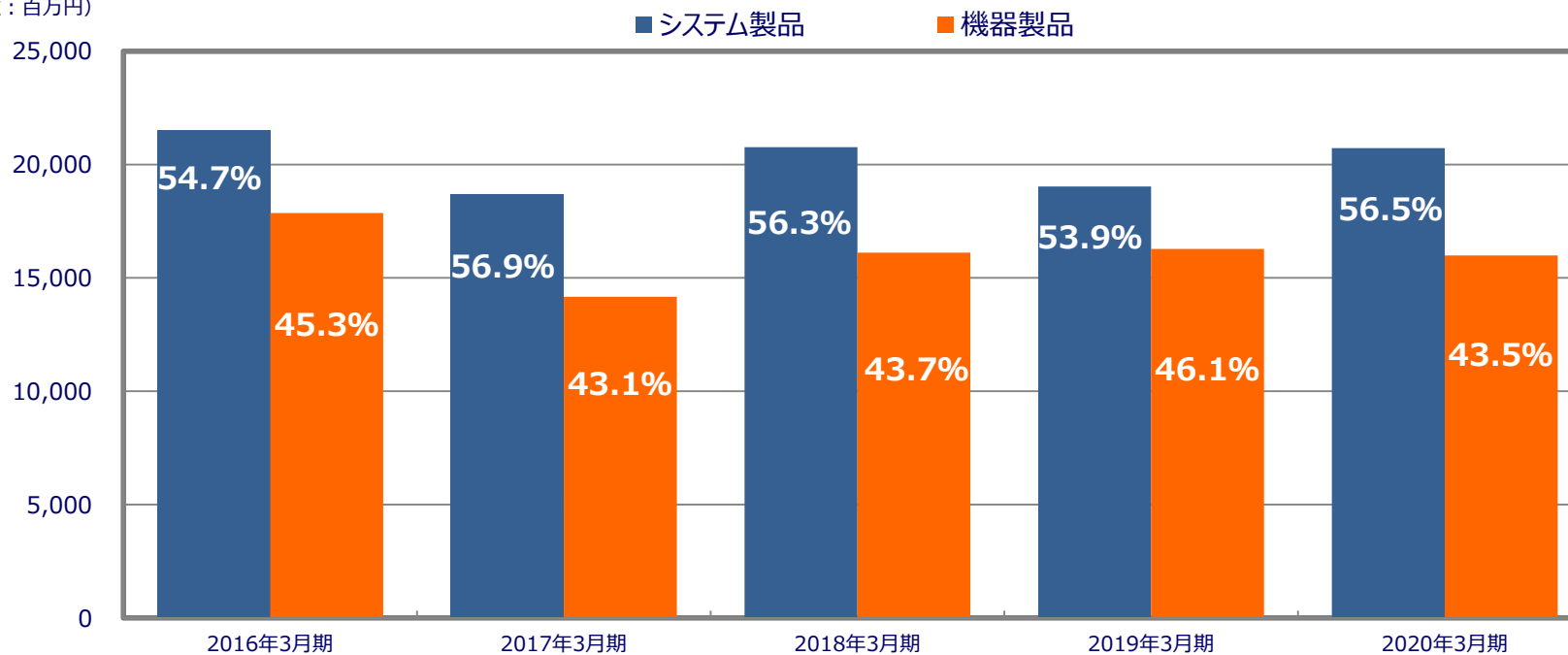
# 主要連結財務指標の推移

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
<b>EPS</b> 1株当たり当期純利益	円 銭 201.27	円 銭 131.93	円 銭 110.67	円 銭 100.36	円 銭 156.20
<b>BPS</b> 1株当たり純資産	円 銭 2,096.30	円 銭 2,128.65	円 銭 2,261.78	円 銭 2,305.18	円 銭 2,410.35
<b>自己資本比率</b>	% 60.2	% 60.4	% 63.3	% 67.1	% 67.1
<b>ROE</b> 自己資本利益率	% 9.8	% 6.2	% 5.0	% 4.4	% 6.6
<b>有利子負債</b>	百万円 4,913	百万円 4,862	百万円 4,169	百万円 3,339	百万円 2,787
<b>DEレシオ</b>	% 18.0	% 17.6	% 14.2	% 11.2	% 11.1

**経営目標 : 自己資本比率55%以上**

# 製品別 連結売上高比率

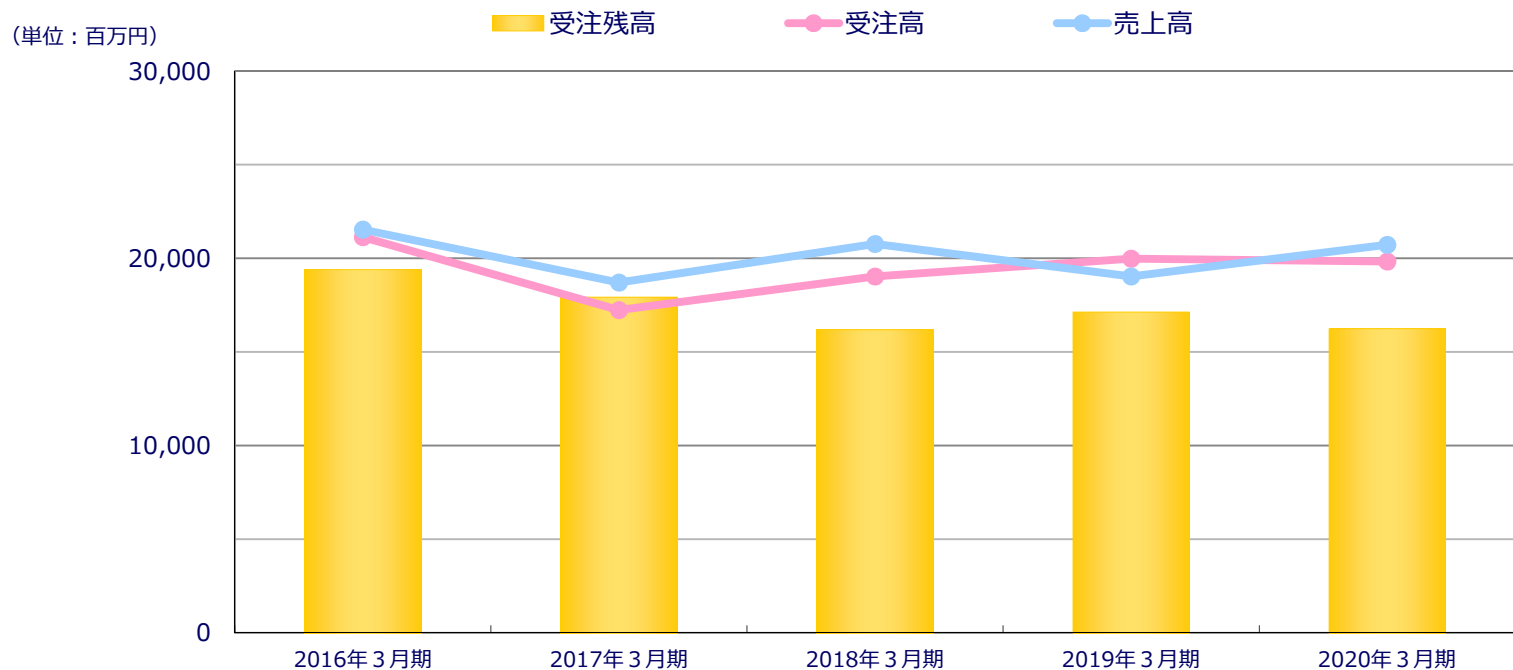
(単位：百万円)



(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	前年同期比 増減率
システム製品	21,536	18,706	20,767	19,032	20,722	+8.9%
機器製品	17,863	14,167	16,112	16,278	15,978	△1.8%

# システム製品 連結売上高・受注高・受注残高



(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
受注残高	<b>19,396</b>	<b>17,927</b>	<b>16,190</b>	<b>17,139</b>	<b>16,247</b>
受注高	<b>21,132</b>	<b>17,236</b>	<b>19,030</b>	<b>19,982</b>	<b>19,830</b>
売上高	<b>21,536</b>	<b>18,706</b>	<b>20,767</b>	<b>19,032</b>	<b>20,722</b>



## 2021年3月期 連結業績予想及び配当予想

2021年3月期の連結業績予想及び配当予想につきましては、新型コロナウイルス感染症が事業活動及び経営成績に与える影響について、業績予想の適正かつ合理的な算定が困難であることから、未定としております。

なお、今後適正かつ合理的な算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。

# 今後のセグメント経営戦略

## 日本

国内の設備投資は、省力化投資、都市再開発等の案件があるものの減速、海運及び造船市場は、海洋環境規制関連案件があるものの、厳しい状況が続く見通し。

### ●船舶用システム製品

- 高付加価値船(LNG船、コンテナ船等)向け配電制御システムの受注強化による売上と利益の確保
- 高付加価値船向け新型高圧盤と汎用船向け新型低圧盤の開発
- 最適エネルギーマネジメントシステム、陸電供給システム、Soxスクラバー制御装置、バラスト水処理制御装置等の環境・省エネ・安全対応ビジネスの拡大により、1隻あたりの当社貢献度を高める
- 生産性の向上とコストダウン
- 船員教育市場向けシミュレーターの受注及び船員教育トレーニング・ビジネスの推進

# 今後のセグメント経営戦略

## 日本

### ●産業用システム製品

- 国内外のコージネレーションシステムをはじめとする分散型電源市場、電力市場、環境市場への営業強化
- 国内外の鉄道関連とプラント案件への受注強化
- プラント関連顧客数の増大と受注の拡大

### ●機器製品

- 新製品の市場投入
- 狙いの市場への戦略的な営業展開による受注拡大  
(新エネルギー関連市場、新興国インフラ市場、海外船舶市場等)
- O E Mパートナーの拡大
- グループ全体での物流改善による顧客ニーズ対応とコスト削減

# 今後のセグメント経営戦略

## 日本

### ● メディカルデバイス

- グループ連携による開発力・生産能力のさらなる強化
- 医療業界のニーズに合った新製品の開発
- ビジネスパートナーとの共創力強化

### ● エンジニアリング 及び ライフサイクルサービス

- Terasaki Global Service Network(TGSN)の拡充と新サービスの提案
- ライフサイクルビジネスの拡大をテラサキグループ全体で推進
- 陸電供給システム、バラスト水処理装置及びSOx規制対応に対するエンジニアリングビジネスの受注拡大
- レトロフィットビジネスの拡大
- 産業用エンジニアリング事業の強化
- 船員トレーニング・サービスの確立

# 今後のセグメント経営戦略

## アジア

貿易摩擦等が懸念されるものの、韓国及び中国のLNG船大型受注の動きや、海洋環境規制関連の案件が続く見通し。

### ● 船舶用システム製品

- － 営業力強化によるアジア市場でのシェアの維持・拡大
- － 高付加価値船向け製品の営業力と生産対応力の強化
- － 陸電供給システム等の環境・省エネ・安全対応ビジネスの拡大により、1隻あたりの当社貢献度を高める

### ● 機器製品

- － 新製品の安定供給
- － 中国、韓国並びに東南アジアにおける営業力強化によるシェア向上
- － 日系顧客のアジア展開時のビジネスチャンスを「TEAM TERASAKI」で創出
- － 船用市場とインフラ関連市場およびIT関連市場への営業強化

# 今後のセグメント経営戦略

## アジア

### ● 産業用システム製品

- シンガポールと中国を拠点にインフラ投資案件への営業強化
- 日系企業に対する営業強化
- 高付加価値製品に対する生産対応力の強化

### ● エンジニアリング 及び ライフサイクルサービス

- 陸電供給システム、バラスト水処理装置及びSOx規制対応に対するエンジニアリングビジネスの受注拡大
- Terasaki Global Service Network(TGSN)の拡充と新サービスの提案  
(シンガポール、中国、ドバイの拠点の更なる拡充)
- ライフサイクルビジネスの拡大をテラサキグループ全体で推進
- レトロフィットビジネスの拡大

# 今後のセグメント経営戦略

## ヨーロッパ

イギリスのEU離脱、地政学的リスク等により経済は減速する見通し。

### ● 機器製品

- OEMパートナーとの協力関係強化による顧客数の拡大
- 欧州周辺国と中東・アフリカ市場のシェア拡大
- ロジスティクス改革の推進によるお客様満足度の向上と物流コストの削減

### ● エンジニアリング 及び ライフサイクルサービス

- アフターサービスの強化  
(欧州・中東におけるTerasaki Global Service Networkの強化)
- ライフサイクル及びレトロフィットビジネスの拡大



### **本資料お取扱い上のご注意**

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するにあたっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。